

優秀賞

高校生部門

東京都町田市

私立和光学園和光高等学校2年

内川 友梨香

心を磨くこと

「いってきまーす!」

当時小学校二年生だった私は歩いて学校へ向かった。終業式の日だった。翌日から始まる夏休みに気持ちを弾ませながらも、今日は大掃除だ、嫌だななんてことも考えていた。

体育館で終業式が行われ、早速恒例の校長先生の話が始まる。先生は人気者ではあったが、終業式となればやはり上級生たちはうんざりとした様子で、幼い私達にとっても楽しいものでは無かった。蒸されるような暑さに耐えながら、穏やかで優しい校長先生のをぼんやりと聞いていた。

「床を磨くことは、心を磨くことです」

突然スツと私の耳に入った言葉。当時の私には深い意味までは理解出来なかったけれど、素敵な言葉だと感じたことは、今でもはっきりと覚えている。

簡単に言えば、終業式後の大掃除にきちんと取り組みましょうという結論につながった内容だったのだが、奥の深いものだった。

某大手企業の現社長は、社員時代から毎朝誰よりも早く出勤し、トイレ掃除をしていたという。校長先生も毎朝一日のスタートは掃除からだと言うのだった。

「心にゆとりがある人は、身の回りが片付いています。心にゆとりが無い人は、五分早く起きて掃除を始めてみましょう。床を磨きましょう。心がきれいになります。床を磨くことは心を磨くことです」

もう十年近く前の言葉だが、今でも掃除をするときにふとこの言葉が浮かんでくる。気持ち落ち着かない時、身の回りの整理から始めるようになったのも、この言葉を聞いてからだと思う。

ある言葉のワンフレーズが、誰かの心に留まって何年も先まで生きることには力を感じる。自分が発する何気ない一言も大切に、世の中にたくさんあふれている素敵な言葉を見つけて、触れていきたい。